

APAQG台中會議について

1. はじめに

2014年9月4日～5日に台湾の台中市にて、APAQG（Asia-Pacific Aerospace Quality Group）台中會議が開催された。JAQG（Japanese Aerospace Quality Group（航空宇宙品質センター））は、アジア・太平洋地区におけるリーダーとして、IAQGに提言することを基本戦略として活動しているが、以下に今回の會議について報告する。

2. 會議の概要

(1) 今回のAPAQG台中會議には、アジア太平洋地域の航空宇宙関係48組織から約90名が参加した。なお、APAQG會議の台湾での開催は今回が初めてであり、台湾の主要なサプライヤ20社にもIAQG/APAQG活動の

成果を直接伝えることができ有意義であった。

(2) 會議ではIAQGの最新の活動状況（規格要求、製品及びサプライチェーン改善、要員能力、国際航空宇宙認証制度管理、関係強化戦略）についての情報の共有を図るとともに、JAQG独自活動の「強固な品質マネジメントシステム構築の検討」の最新状況につき報告した。その成果（ガイダンス文書、9100規格改正案）については、IAQGへの提案活動を継続する。

(3) 次回IAQGロングビーチ會議に向けてAPAQGとしての意見集約を実施した。なお、この會議と併催を予定していた2016年



評議會の様子

の次期9100規格^(*)改正に向けた、APAQG 9100改正検討チーム会議については、別途9月に北京で開催することとなった。これは、APAQG内の情報共有、意見調整及びIAQGへの対応協議などのためのもので、次回IAQGロングビーチ会議に向けて意見集約を図る予定である。

APAQG台中会議の参加国、参加組織は以下の通りである。

日本：MHI、KHI、FHI、IHI、IA、SJAC

中国：Boeing Tianjin Composite、Harbin Embraer

韓国：KAI、KAL-ASD

台湾：AIDC、EGAT、今回会議は2社の共同ホスト

交通部民用航空局（台湾の航空局）、
経済部（台湾の経済産業省）、認証
機関

その他、オブザーバ参加30組織（内、AIDCのサプライヤ20社）

シンガポール：DSO National Laboratories、Liebherr-Singapore、APAQG準会員（1社からの個人会員）

インドネシア：不参加

*1) 9100規格：品質マネジメントシステム－航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項

3. 会議内容

(1) 評議会

(a) 主要な審議結果

評議会での主要な審議結果は以下の通りである。

- ・JAQGより「強固な品質マネジメントシステム構築の検討」の最新状況につき報告し、APAQGパブリックウェブサイトに掲載した以下の4つのガイダンス文書（英語版）につき、APAQG



評議会の様子



評議会後の集合写真（APAQGメンバー）

メンバーの意見を求めることになった。

- コンプライアンス教育
- 飛行安全教育
- 作業指示書の取り扱い
- 現場からの意見吸い上げ手順
- ・シンガポールのLiebherr-Singapore社がAPAQG会員として承認された。
- ・APAQGの会計報告に関し、2015年予算案が承認された。
- ・2016年のIAQG会議開催国について、シンガポールでの開催をIAQGに提案することが確認された。
(参考) 2015年4月の開催地：中国（成都市）、ホスト会社：AVIC
- ・2015年秋のAPAQG会議開催国について、韓国開催が確定した。(ホスト会社：KAL-ASD)
(参考) 2015年4月の開催地：中国（成都市）、ホスト会社：AVIC

(b) 各国のステータス報告

評議会での各国のステータス報告は以下の通りである。

日本：JAQG幹事長（筒井 俊一(IHI)）より、JAQG活動状況が報告された。

中国：CAQG（China Aerospace Quality Group）の活動状況が報告された。CAQGは正会員11社、一般会員53社で構成されている。正会員が中心となって活動を展開しており、IAQG/APAQG会議に対応して年2回（春／秋）CAQG会議を開催している。

4つのWG（規格要求、要員能力、SCMH、パフォーマンス）とIAQG規格に対応したサブWGが組織されている。

SCMHに関しては、中国国内の展開のため、中国語への翻訳を進めている（37%が翻訳完了）。

韓国：自国企業の認証は、主にAS9100/9110/9120によっており、韓国のAS9100認証取得会社は232社（半年で38社増加）、また、AS9110とAS9120認証取得会社はそれぞれ11社、2社となっていることが報告された。

台湾：AIDCのサプライヤ管理の取組状況について説明があった。AIDCはそのサプライヤの品質向上のためAS9100認証取得を強く推奨し、コンサルタントも実施しており、サプライヤの大部分がAS9100認証を取得している。また、2014年からは、AIDCはそのサプライヤに対する品質監査を年1回実施（重要なサプライヤは、月1回実施）して、品質向上に努めている。

シンガポール：シンガポール国内の認証状況は、AS9100認証取得会社は98社、AS9110とAS9120認証取得会社はそれぞれ16社、30社となっている。シンガポールの航空宇宙工業会(AAIS)の傘下にSAQG(Singapore Aerospace Quality Group)を設立する計画であることが報告された。

(c) IAQG戦略検討ワーキンググループ傘下の分科会の活動報告

評議会では、各分科会の個別報告が行われた。()内は報告者(敬称略)である。

このセッションはIAQG会議に参加していないAPAQGメンバーに最新のIAQGの情報を提供し、IAQG活動の成果を共有するという側面を持っている。今回は、2014年4月に開催されたIAQGブリュッセル会議の結果及びその後の進捗を中心に報告された。

なお、IAQGブリュッセル会議内容については、本会報2014年6月号を参照されたい。

- ・IAQG改善戦略各分科会の活動報告
 - －規格要求分科会
 - ・全般(白井 達矢 (KHI))
 - ・次期9100規格(河本 正博 (MHI))
 - －製品及びサプライチェーン改善分科会(渡邊 靖 (MHI))
 - －要員能力分科会(朝倉 崇顕 (IHI))
- ・IAQG関係強化戦略各分科会の活動報告
 - －国際スペースフォーラム(西尾 洋子 (IA))
 - －防衛当局関係強化分科会(河本 正博 (MHI))
 - －MRO関係強化分科会(David Tan (P&W Singapore工場))
- ・国際航空宇宙認証制度管理チームの活動報告(小森 秀司 (FHI))

(d) その他のトピックスの紹介

以下のトピックスが紹介された。

- －先行製品品質計画／生産部品承認手続き(規格概要等の紹介)(首藤 寛 (MHI))
- －安全管理システムの紹介(David Tan (P&W Singapore工場))
- －新APAQG会員専用ウェブの紹介(菅野 義就 (SJAC))

(2) 工場見学

会議最終日に、AIDCが航空機向けの複合材の研究開発、設計、製造のため、さらには周辺地域のハブになることを目指して設立したTaiwan Advanced Composite Center (TACC)を見学した。建屋は210m×120mの4階建て、主要な設備としては、大型冷凍庫、大型クリーンルーム、4基のオートクレーブ、2台の5軸CNC(コンピュータ数値制御)マシン、3D超



TACCの全景

音波検査システム、リアルタイムX線検査システムなどを装備しており、2010年12月から製造を開始している。4階の主な作業領域は、10mの天井高さを有しており、大型航空機部品の製造が可能となっている。また、製造プロセスの自動化が図られており、工場内は少人数で操業している。

4. おわりに

IAQGは、世界共通の航空宇宙品質マネジメントシステム規格(9100規格)を初めとする関連規格の制定に加え、“On Time, On-Quality Delivery (OTOQD)”を効率的に達成するこ

とを目標に活動を展開している。

アジア太平洋地域にIAQG活動を広めかつアジア太平洋地域の意見をIAQGに反映させるためには、APAQG活動を活発化させ、多くのアジア太平洋地域のメンバーが継続的にAPAQG会議並びにIAQG会議に参加することが重要である。中国におけるCAQG設立に続き、シンガポールでもSAQG設立の動きがあり、アジア各国の活動も活性化して来ている。

今後もJAQGは、APAQGのリーダーとしてAPAQG活動を牽引し、日本の意見をIAQGに提言する活動を推進する所存である。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 菅野 義就〕